

## 令和3年度 授業改善推進プラン〈美術科〉

### ● 美術科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ▶ タブレットが導入され、美術室のWi-Fi環境が整ったことにより
  - (第1学年) 絵文字のアイデアの発表会において活用することができ、生徒は意欲的に取り組んだ。
  - (第2学年) 3Dイラストのソフトを用いてロゴマークをデザインした。普段絵が苦手な生徒も積極的に取り組み、発想に広がりを見せた。
  - (第3学年) カメラ機能を用いて友人の横顔を逆光で撮影し、横顔シルエットの制作を行なった。モデルの時間が短くて済む上、動かないため、描きやすかったようで短時間で制作ができた。
- ▶ コロナによる休業で年間指導計画の見直しを行ない、第2・3年において休業中に自宅のできる課題を実際の授業につなげ、新しい課題を取り入れた。「日本の伝統文化である家紋をオリジナルでデザインし、和風の色彩で表現する」という第3学年の課題では、生徒達の日本の美に対する理解が深まり、高い成就感を得たようである。

### ● 美術科における分析と課題

#### 【知識及び技能】

表現に苦手意識を持つ生徒がまだ2割ほどいる。基礎基本の知識と技能を身につけるには、相応の時間が必要である。特に第1学年においては、厳選して色彩の基礎、ポスターカラーの扱い方の基礎、素描の基礎を身につけさせ、第1学年で身につけた技能を元に、第2・3学年では主題にあわせ、造形の要素を活用した表現を、見通しをもって取り組めるように授業を組み立てる必要がある。

#### 【思考力、判断力、表現力等】

形のないものを想像し、イメージを持つことに苦手意識を持つ生徒が多い。表現のヒントを、美術室文庫やPCで探せるよう援助の必要性を感じる。また発表会を行うことは、他者の想いや考え方を知り、刺激を受け、発想の幅を広げる有効な手段であった。今後PC環境が整えられたことを活用し、発想の広がりを持たせる工夫が必要である。

#### 【学びに向かう人間性】

生徒達は、廊下に展示された作品をよく鑑賞し、美術を愛好している様子が見ええる。コロナ感染による外出規制のため、美術館訪問が難しい状況だが、規制が解かれたら、自分から美術館に足を向けたいようになるよう、布石を打っておく必要がある。

### ● 美術科における授業改善のための具体的な取り組み

教室環境の整備	継続	授業の流れが一目で理解できるように、板書や用具・作品提出場所を工夫する。 前年度の見本作品を教室内や廊下に掲示する。
授業規律の確立	継続	持ち物の準備・チャイム着席・挨拶・話を聞く態度の指導の徹底。
技能の基礎基本	継続	色彩・レタリング・ポスターカラーの使い方といった美術における基礎基本を丁寧に指導し、習得させる。
物を観る力の育成	継続	デッサンを通して、思い込みを捨て、物をしっかりと観る事を学ばせる。
学習の整理	継続	学んだことが一目で分かるようノートにまとめられたかを評価する。
発想力の育成	継続	自分のイメージにあった画像を探す力や手法を身につけさせる。 他の発想に触れることで、新たな発想を生み出す力を身につけさせる。
活動の振り返り	継続	毎授業、活動の振り返りを制作カードに記録させ、めあてを理解し、見通しを持ちながら作業をしているかを評価・確認する。
作品の全員展示	継続	全員の作品を掲示することで、承認欲求を満たし自己肯定感を高める。